

「良心(神の声)に従う訓練」

ローマの信徒への手紙 7章19～20節

聖学院中学校高等学校 副校長 角田秀明

3週間前に本校高校卒業後53年が経過した方々(72～73歳)の同窓会懇親会にお招きいただき、聖学院中高の近況をお話しさせていただきました。特に、昨年2013年度より始めた毎朝の全校礼拝(中1～高Ⅲまでが全員講堂に集まる15分間の礼拝)が恵みのうちに守られていることとお話ししましたところ、当時は1時間目と2時間目の間に全校礼拝をしていたとのことでした。感謝なこと今日まで15分間の短い礼拝ですが、毎朝、程よい緊張と集中の中で、讃美歌、主の祈り、聖書朗読、メッセージ(7分間)、そしてお祈りのプログラムが進められていることを報告すると皆さん大変喜んで下さり激励のお言葉をたくさんいただきました。

さて、前回の奨励の時に「自立」についてお話させていただきましたが、まさに皆さんは「自立」に向けて日々成長の上り坂にいると言えます。昨日までできなかったことが今日できるようになるという小さな奇跡が学校のあちこちで起こることでしょう。そして、「できるようになった」という小さな奇跡の一つ一つが各々の「自立」に繋がっていきます。

当然のことですが、「自立」するには意志力が強められなければなりません。今日の聖書の箇所、あの偉大な伝道者パウロが自らの心の深い悩みを告白しています。自分の欲する善を選び取ることができない自分について包み隠すことなく告白しています。同じようなことですが、神経科学者の中には、わたしたちの脳は一つしかないが心は2つある。わたしたちの心の中には2つの自己が存在し、たえずせめぎ合っていると言う方々があります。なるほど、**わたしたちの生活は、小さな選択の連続で成り立っている**と言えます。つまり、心の中の二つの声のどちらを選ぶかの選択を瞬間、瞬間しているのです。

ここである小学校6年生の詩を紹介します。

「王様のご命令」と言ってバケツの中へ手を入れる 「王さまって だれ」

「私の心のこと」

おそらく寒い冬のことでしょう。掃除のために雑巾を冷たい水の中でゆすぐ時のことかも知れません。「いやだなあ」という素直な気持ちと、「王さまのご命令に従わなくては」という気持ちとの間の葛藤がユーモラスに描かれている。とうとう「王さまのご命令」のほうに従って、バケツに手を入れたのです。ともすると大人は、「冷たいのに可哀そう」とか「私もしたくないから、生徒もいやがるだろう」という同情

心で、やらなくともいいと免除してこの機会を取り除いてしまうかもしれません。しかし、この詩から、子供たちの中にある「良心」、(神の声)に聴き従うことを選び取る意志の力に感銘を受けました。聖学院ならば、「王さま」というよりは、「神様のご命令」「イエスさまのご命令」となるところでしょうか。「神様のご命令」「イエスさまのご命令」と言って、しなければならないことを選び取っていく決断と勇気が育ってくれるとすばらしいですね。「イエス様の名によって」「イエス様のご命令」という言葉には魔法の力があります。「今、何がしたいか」と同時に「今、何をしなければならないか」を合わせて考えられる人になること。さらに、その両者が競合する時には、「イエス様のご命令」「神様のご命令」と宣言して、「しなければならないこと」を優先して行う判断力と意志の力を与えていただきましょう。そうすればきっと必要な力が与えられることでしょう。

学校では授業で提出課題が出ます。課題には提出期限があります。実は提出課題は期限を守ることに意味があるのです。それが他ならぬ意志力の訓練になるのです。

1. やらない力(「したいこと」に待ったをかける力、誘惑に打ち勝つ力)
2. やる力(明日こそ、いつかきっと、やろうと思いつつ、ずっと先延ばしにしていることはないか。これらも意志の力が強ければ今日の「やることリスト」に加えられるかもしれません。面倒だなと思いつつも、自分のやるべきことをやる力をつけようではありませんか。)

意志力は筋肉と同じように使えば使うほど強靱になるが、使わなければ弱くなる。ですから意志力を強化する挑戦をしてみましょう。今日一日の中で、やること、やってはいけないこと、をそれぞれ一つずつ決めて意志力を訓練する試みをしてみましょう。そして、このような日々の実践は間違いなく「自立」に繋がります。

2014年6月12日 聖学院中学校高等学校 全校礼拝